

デジタル庁 提出資料

- 我が国は人口減少による構造的な供給力不足に直面し、従来の供給構造を続ければ、社会経済の維持が困難になるおそれ。
- その中で、AI・デジタル改革は、業務の効率化や個別の規制改革にとどまらず、日本社会の供給構造そのものを作り変えるものであり、「成長投資」として国際競争力を高めるとともに、様々なリスクや社会課題に対し、官民が手を携え先手を打って行う戦略的な投資としての「危機管理投資」でもある。
- AX社会の実現に向けて、デジタル行財政改革会議を「AI・デジタル改革推進会議」に発展的改組。AI本部、AX実装大臣、規制改革本部と密接に連携し、AX・DX実行の司令塔として、信頼できるAIで社会全体を駆動するAXの具体像を示し、AXに対応した構造改革を進めるための「AI・デジタル改革原則」に基づいた規制・制度改革を断行し、アクションプランを定め、AX社会実装を加速。
- さらに、フロンティアAIの急速な進展や、AIエージェントの普及、AI覇権競争の激化など、AIを巡る環境は日々変化。社会実装を進める大前提として、AI技術の急速な進展に伴うリスクに正面から向き合い、適切に制御することでAIによるリスクを最小化。

論点1. 信頼できるAIで社会全体を駆動するAXの具体像

- ・ 2030年時点での行政、産業、暮らし、危機管理の姿
- ・ 「信頼できるAI」の担保
- ・ AIと産業や行政等との融合のあり方
- ・ 社会全体を駆動するための共通基盤
- ・ 人とAIの協働のあり方
- ・ AXの進展に対する評価のあり方

論点2. 「AI・デジタル改革原則」に基づく規制・制度の整備

- ・ AI・デジタル改革原則の策定
- ・ AXに対応した規制・制度改革の具体化
 - ・ 人によることを前提とした規制（士業等国家資格等）の横断的整理
 - ・ AIを用いた行為の責任分界・被害救済、代理行為等に関する整理 等

論点3. AX社会実装の加速

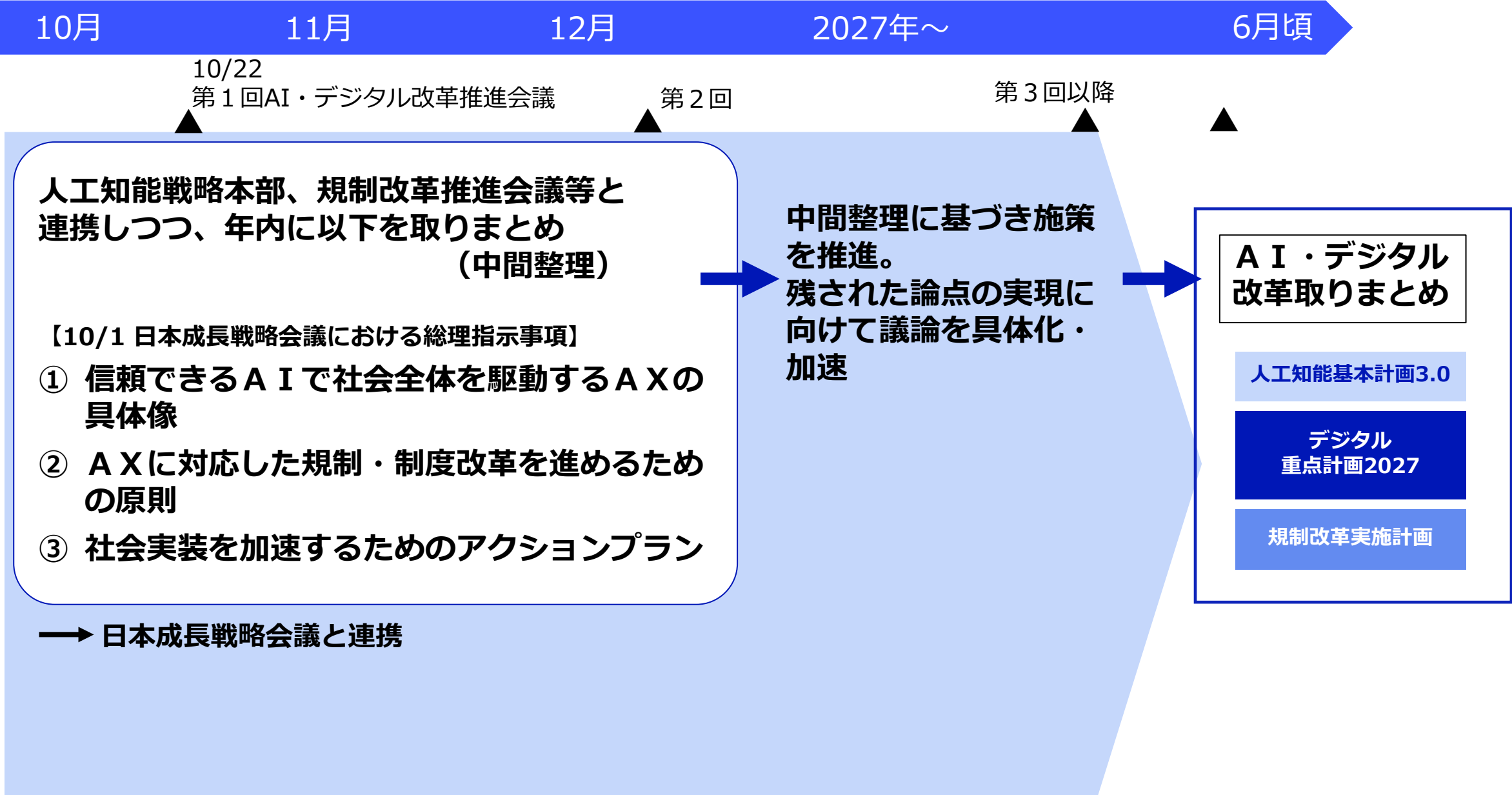
- ・ 医療・介護・建設・運輸等におけるAX社会実装加速のアクションプラン
- ・ バータカルAI／AI・ロボティクス戦略のロードマップ
- ・ 公共領域・準公共領域のAXの方向性と重点的な取組
 - ・ 「源内」大規模実証
 - ・ 自治体AX
 - ・ 自動運転社会実装加速 等

論点4. AIガバナンスの更なる強化

- ・ 「責任あるアジャイル・ガバナンス」の下、機動的に対応
- ・ AIがもたらし得る悪用、予期しない挙動、社会的なリスクを踏まえ、AIエージェントのシステム全体での安全性を確保していく観点から、①ハーネス、②ID認証、③ガードレール、④権限管理、⑤評価、⑥監査ログなど、適切な対策の考え方を整理し、信頼できるAI実装を推進
- ・ 現行のAI法を含むAI開発・活用関連制度の見直し・強化に着手

論点5. AX社会実現に向けた横断的課題への対応

- ・ データ、システム、自治体のAI-Ready化
- ・ AI・デジタル人材の確保・育成



本日の議論を踏まえ、①A Xの具体像、②A I・デジタル改革原則、③A X社会実装の加速化、この3点を、特に優先的に進めるべき事項として、年末までに「中間整理」のかたちで取りまとめることとしたいと思います。

また、「A Iガバナンスの強化」など、残された論点についても、年明け以降速やかに具体化し、関連する計画等の改定につなげていきたいと思います。

そのため、関係大臣には、以下の点をお願いします。

まず、A Xの具体像について。古川大臣は、2030年時点のA Xが実現された行政、産業、暮らしの姿などの具体像を年末までに明確化するとともに、「信頼できるA I」の確立に向けたA I法を含む関連法制度の見直しや、A I S I（A Iセーフティ・インスティテュート）の更なる機能強化を進めてください。

次に、規制・制度改革について、であります。古川大臣は、「A Xに対応した構造改革を進めるための原則」、これを年末までに策定してください。

古川大臣と中司大臣におかれては、関係大臣とも連携し、A Iと「人」のベストミックスの実現に向けた規制・制度の整備を、府省庁の垣根を越えて速やかに進めてください。

また、各府省庁による「アナログ規制の見直し」の再点検も含め、法制度検証・改革担当の観点から、山下大臣と連携して進めてください。

A Xの社会実装について。赤澤大臣は、年末までに、A X実装を加速する、即効性のあるアクションプランを取りまとめ、速やかに、人手不足問題の緩和と成長戦略の実現を図ってください。

その際、古川大臣と連携して、フィジカルA I・A Iロボットなどの日本の強みを確固たるものとする具体策の検討を進めてください。

また、古川大臣は、関係大臣と連携し、自動運転を始めとする公共や準公共分野のA Xの方策を、順次具体化してください。

以上を中心として、関係大臣は、年末の「中間整理」に向けて、効果的なA X・D Xの推進方策の検討加速をお願いいたします。私からは以上になります。

2030年時点での行政、産業、暮らし、危機管理の姿

- AIの活用を前提に業務・組織やサービスの提供方法を変革するAXにより、現場の負担軽減と生産性向上が進み、人が判断や対人対応、創造的な活動に注力できるようになる。
- 2030年に向けて、限られた人員でも事業や公共サービスを持続・発展でき、一人ひとりの状況に応じた支援が届くなど、行政・産業・暮らし・危機管理の各場面で変化が期待される。

領域	2030年に目指す姿(例)	国民・現場から見た変化(例)
行政	AIが定型業務を担い、職員が判断や住民対応に注力し、申請しなくても必要な支援が届く、質の高い行政	書類確認や情報収集・転記に多くの時間を費やす。 ↓ AIが定型業務を自動処理し、窓口から内部事務までの流れを再構築する。手続きが迅速に進み、職員は複雑な相談や政策判断に注力できる。行政データの連携とAIの活用により、支援を必要とする人を把握し、本人が制度を調べて申請しなくても、一人ひとりの状況に応じた支援が届くようにする。
産業 〈製造の例〉	現場の知恵をAIで生かし、少人数でも高品質なものづくりで成長できる産業	熟練者や個々の企業・工場に知識・データが閉じている。 ↓ 現場の知見と設計・製造・品質等のデータを企業や工程を越えてつなぎ、AIによる品質管理や生産工程の最適化に生かす。AI・ロボットによる作業の自動化や工場の自律制御を進め、生産性と品質を高め、ものづくりの競争力を強化する。
暮らし 〈医療の例〉	AIを軸とした業務・経営改革により、医療従事者が本来の業務に集中でき、誰もが質の高い医療サービスに公平にアクセスできる社会	医療従事者が記録作成等の業務に追われるとともに、医療情報が施設・システム間で分断され、業務負担が大きい。 ↓ AIによる看護記録や診療情報提供書等の文書作成支援、診療支援等を通じて、医療従事者の業務負担を軽減。医師・看護師等が本来の業務に集中でき、患者が安心・安全で質の高い医療サービスを受けられる。
危機管理 〈防災の例〉	AIが被害状況や支援ニーズ等を分析し、被災者に寄り添ったモレ・ムラのない支援が届く社会	情報が分散し、対応が職員の経験に依存する。 ↓ AIが被害状況・交通情報等を分析して現場の意思決定等を支援し、より適切な災害対応につなげ。住民には状況に合った情報が届き、初動から復旧・復興まで一人ひとりの状況に応じた必要な支援が届けられる。